明倫奨学生近況報告

平成30年度　奨学生　温水　聖太

梅雨明けの候、ますますのご盛栄とお慶び申し上げます。今年度前期、私に明倫奨学金を支給してくださり本当にありがとうございました。今年度前期をもって、私は九州大学の最終学年を迎えました。

私は3年まで卒業に必要な単位の9割強を取得したので、今年度前期は卒業論文指導以外の講義はありませんでした。その卒業論文指導も月1回の開催だったので、残りの時間を卒業論文の執筆や資格の勉強（簿記）に費やしました。福岡県は2022年7月時点でも以前新型コロナウイルス感染症の患者は増加していますが、九州大学では次第に対面での講義が実施されるようになりました。私が受講している卒業論文指導も対面で実施され、大学では初めて専攻の講義を対面で受講しました。これはあくまで個人の見解になりますが、インターネットの通信環境を逐次気にする必要がないので、オンラインよりも対面での講義のほうが個人的にはやりやすいと思いました。論文指導がない日は研究室に通って、院生や同級生に自分の論文を見てもらいました。卒業論文と聞いて、最初は8ヶ月以内に執筆し終えるのかと不安に苛まれました。しかし、受講するべき授業がないので、無理のない範囲で卒業論文の執筆を進められています。卒業論文の執筆と同時進行で進めていることがあります。それは、ITメディアの運営とWebアプリ・Androidアプリの開発・運用を担う会社の起業準備です。現時点では個人事業のままですが、私は昨年10月に税務署に個人事業主の開業届を提出しました。私は大学卒業後、この会社を一人で経営して生計を立てようと考えています。プログラマー向けに、自分の知識や書いたプログラムをTwitter形式で共有してフィードバックをもらえるアプリを開発しています。あと、初学者向けにSNS経由でプログラミングに関する情報を発信しております。現在、事業は右往左往していますがなんとか運営できております。以上で報告を終了します。皆様もCOVID19に十分留意して日々の生活をお過ごし下さい。最後までお読みいただき誠にありがとうございました。

令和元年度　奨学生　細元　亮

福岡大学スポーツ科学部スポーツ科学科の3回生となり、前期の日程が終了しました。コロナ渦で目まぐるしく社会が変化する中、勉学や部活動に力を注いでいました。これまでの学校生活について報告させていただきます。

まず、学習面では、一般の科目と別にスポーツバイオメカニクスの運動学実験実習が始まりました。これは、バイオメカニクスにおけるキネマティクスとキネティクスの2つのアプローチを主に学ぶことができました。運動を数字や機械で正しく正確に捉えることで自分の専門競技にも生かすことができると考えました。また、定期試験も7月後半に行われました。対策をしっかりしたので、自信はあります。大学生活も折り返しに来ているので1日1日を無駄にせず、自分にプラスになるように勉学に励みたいと思いました。

次に部活動面では、8月8日から11日まで別府で強化合宿がありました。使用したグラウンドは、ラグビー日本代表も練習で使用するものでとても良い環境でラグビーをすることができました。また、ホテルの食事もおいしくて体重を2kg増やして合宿を終えることができました。今年のシーズンは、スタンドオフとして試合に出る予定です。去年までと違うポジションでナーバスになるときもあるかもしれませんが、冷静にゲームをコントロールしたいです。初めての挑戦であるのでとてもわくわくしています。

生活面では、ラグビー部とキャンプや海に行ったりとプライベートも充実することができました。昨年までは、新型コロナウイルスの影響で行動制限がされていましたが。今年はストレスフリーで様々なところに行くことができました。自然に触れることも大切であると思うので、積極的に出かけたいと思いました。

奨学金を頂いているおかげで、活動の幅を広げることができました。これからも期待に応えられるように努力していきます。感謝の気持ちを忘れずこれからも精進してまいります。

令和二年度　奨学生　宮越　大輔

二年前期はコロナ禍の中、ほとんどの授業が対面で始まりました。昨年はほとんどオンライン授業だったこともあり、やっとキャンパスライフがスタートするといった感じでした。授業は専門的な授業が多くなり、製図やプログラミングなど新しい知識を使って学ぶ時間が多くなりました。製図は機械の部品を上面図と側面図から表すもので、情報の読み取りや書き込むことが楽しく自分の得意な作業であることがわかりました。数学的な授業では、高校の数学をベースに新たな公式や定義を使って大学数学に発展していき、探究心を擽る内容でした。他にも体育の授業をとって、他の学部の人と交流をし、新しい世界を知ることができました。初めて全部のテストが対面形式でテスト期間は友達と大学の勉強スペースにこもって勉強に励みました。サークル活動もコロナ対策をしながら行われ、多学年や他学部との交流も増えました。後輩と接するときは緊張するものもありましたが、すぐに打ち解け、プライベートでも仲良くなりました。先輩には旅行に連れて行ってもらい、とても充実した生活を送れていました。バイトは昨年度末から続けている料亭のホールスタッフを続けており、アットホームな職場と優しく暖かい方々のおかげで毎日楽しく働いています。職場には同世代の人が多くプライベートでも遊ぶ仲になりました。大学卒業までこのバイトを続けていきたいです。大学が対面授業を再開し、いろいろな人との交流が増えて昨年よりも充実した時間を過ごせていることを幸せに思います。コロナ禍は続いていきますが感染対策をしつつ、限られた中で楽しいことを見つけていこうと思います。一人暮らしも一年を過ぎ、この生活には慣れてきましたが、両親への感謝の気持ちと初心を忘れず生活していこうと思いました。もちろん学業が一番大事ですが、今大学生だからこそできることをたくさんしていきたいと思います。周りの人への感謝を忘れず、後期も頑張っていきます。

令和三年度　奨学生　日髙　大輝

受験期を乗り越え大学の入学式を迎えて約4か月が経過し、前期が終了しました。広島大学はターム制なので、前期が1ターム目と2ターム目に分かれています。1ターム目ではミクロ経済学やマクロ経済学など専門的な授業が多かったです。内容は難しいですが、理解が出来ると勉強していくのが楽しくなるような学問でした。他にも英語や第二外国語であるフランス語、心理学概論などについての授業もありました。どの授業も奥が深く勉強しがいのある内容だったと思います。2ターム目ではフランス語は引き続き授業があり、他には平和についての授業もありました。平和の授業では世界の貧困問題について考えたり、世界的な外交や戦争の歴史について考えました。1ターム目と2ターム目の終わりにはそれぞれ期末テストが用意されています。授業内容をしっかりと理解できているかが試されるテストです。英語やフランス語の口頭形式のテストでは緊張をしてしまいましたが、念入りにテスト勉強をしたおかげであまり言葉に詰まらずに答えることが出来ました。心理学概論や平和についての授業ではレポート課題が課されました。本の内容を要約したり、平和とは何なのか平和のためにできることは何なのかというような内容を書きました。本は丁寧に読み返したりすることで、大事な部分をまとめ、要約しました。平和についても自分の思いや考えを書くことで良いレポートに仕上がったと思います。ここまでで大学での学習面に触れてきたので、次は生活面についても少し触れようと思います。入学式や入学後の説明会は対面で開かれましたが、授業については半分以上がオンライン授業でしたので少ない対面授業やサークル活動を通じて、同級生や先輩と友達になることが出来ました。生活リズムについても早起きを意識することであまり乱れないように調節をできたと思います。一人暮らしというのもあり、自分で自分を律しないとすぐに生活リズムが崩れていくと思いました。これからも周りへの感謝の気持ちを忘れず勉学に励んでいきたいと思います。

全国大会予選を終えて

ラグビー部監督　檜室　秀幸

11月に行われた県予選を勝ち抜き、第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場する。12年連続の出場となるが、この結果は選手の努力はもちろん、学校・地域・OB・保護者の皆様の支援の賜物である。心から感謝申し上げたい。この学年はコロナ禍で入学し、部活動の相当な時間を制限され、思うように練習が出来なかったのが非常に悔やまれるが、気付けばもう最後の大会である。3年生にとって最後の花園を思い切り楽しみたい。12月27日に初戦を迎えるが、順当勝ちすれば2回戦で優勝候補筆頭の兵庫県代表、報徳学園と対戦することが出来る。毎年、花園期間中に合同練習をおこなっている縁のあるチームだ。しかし超強豪校に対し、胸を借りるつもりで戦うつもりはない。勝つ為に何をすべきか、また何を捨てるのかを選手と共に練り上げ、しっかりと準備をして勝利を目指したい。ラグビー部全員でワクワクして年末を迎えたいと思う。

今年度の活動を振り返って

ホッケー部元主将　谷　柚季

私たち、3年生10名は高校からホッケーを始めました。新聞で取り上げていただいたように、こんな「素人軍団」が今年度、インターハイ出場、九州No.1になり19年ぶりの国体出場を掴み4位入賞という快挙を成し遂げることができました。高鍋高校ホッケー部は、常に明るくチーム内の仲が良く仲間と切磋琢磨し合う環境の中、お互いにライバル心をもって練習に励んだことがこの結果に繋がったのだと思います。また、先生方の指導や、毎週日曜日にOBの先輩方が練習に来てくださり、練習試合をしてくださったおかげであると感謝しています。そういう環境で、私は大学でホッケーを続けて日本代表になるという新しい夢を持つことができました。その為に、大学ではレベルの高い技術を身につけて、精神的にも成長していきたいです。5年後には宮崎県で国民スポーツ大会も開催されます。そのステージで中心選手として活躍できるよう精進していきたいです。

今年度のチーム目標は、「九州3冠、全国ベスト4」でした。九州3冠の目標を達成することができなかったので、その目標を後輩に託したいと思います。チーム一丸となり、仲間を大切に、日々の練習を大事に取り組んでください。高鍋高校ホッケー部らしくパスホッケーで九州No.1、九州3冠、全国ベスト4を超えて行くことを願っています。

今後とも、高鍋高校ホッケー部の応援、どうぞよろしくお願い致します。

九州大会に出場して

野球部主将　森下　謙信

県大会から苦しい試合の連続でした。3回戦の日南学園戦の勝利の瞬間は多くの仲間がベンチの中で感動の涙を流していました。準決勝の小林秀峰戦も終盤の逆転勝利でした。「みんなで沖縄へ」という新チームスタート時の目標を果たせ、最高の気分でした。

九州大会初戦は大分明豊高校との対戦でした。安打数も得点機会も相手を上回り無失策の内容で終始押し気味の展開でした。0対2で負けましたが、悔しいだけでなく、やり切った感覚の大きい試合でした。

仲間と一緒に過ごした沖縄は最高でした。緊張の毎日の中にリラックス出来る時間もあり、一生の宝物になったと思います。原色の植物や綺麗な海、白い砂浜や強い風、全てが新鮮でした。

僕達は、九州大会での戦いぶりが高く評価され、「21世紀枠九州代表」に推薦されました。来年1月27日に最終選考が行われ全国高野連から発表があります。それまで、甲子園出場を夢見て全員で全力で準備します。

今回23年ぶりの出場に多くの方から「元気をもらった」など色々と声をかけていただき、改めて周囲の方に応援されていることを感じました。これからも、感謝の気持ちを大切にチーム全員で前進していきます。ありがとうございました。